

ハウス利用によるシイタケ早期ホダ化法の調査 ()

- ハウス内仮伏せの被覆内温度変化とホダ付率 -

1 はじめに

岩手県の一部の生産者は、農業用ビニールハウス内で仮伏せを行っている(以下「ハウス内仮伏せ」という)。これは、野外では3~4月にならないと始められない仮伏せを、外気より温度の高いハウス内で1~2月に早めて行なうことでシイタケ菌の活着と伸長に十分な期間を与えることを狙ったものである。しかし、ハウス内仮伏せの温度条件に関する知見は乏しいことから、前報(研究成果速報No.268)に引き続き調査を行った。

2 研究方法と結果

調査は洋野町の生産者のハウスで行った。平成22年2月3日に植菌したホダ木を、ハウス内(3.5間×18間)で高さ1mに棒積みし、被覆資材で被覆した(写真、図-1)。被覆内の上部、中部、下部に自記式温度計のセンサーを設置し、仮伏せ中の被覆内温度を記録した。また、ハウス内と屋外の温度も計測した。

仮伏せ期間中は生産者が通常の方法で管理した。主な作業内容は、ハウスの遮光資材施用、

ハウスの側面開放、被覆資材の枚数調節や開放などで、実施時期を図-2の中に示した。

各測点の日平均温度の変化を図-2に示す。変化の激しいハウス内や屋外に比べて被覆内の上部はシイタケ菌の伸長に適した20近くを安定的に保った。シイタケ菌が伸長するといわれる5以上の温度の積算値(有効積算温度)を図-3に示す。屋外に比べ被覆内は十分に高い値を示した。図-4にハウス内仮伏せ終了時(平成22年6月9日)のホダ付率を示す。菌糸の伸長は上部ほど著しかった。

3 おわりに

被覆内温度が20近くを安定的に保ち、有効積算温度が屋外に比べて十分に高いことは前報の結果と同様の傾向であり、確実なホダ付も確認されたことから、ハウス内仮伏せは寒冷地において菌糸伸長を図るのに適した技術と考えられる。当センターでは平成23年3月に技術解説書「シイタケ原木栽培の伏せ込みにおけるハウス利用事例」を発刊するので、併せて参照にされたい。



写真 ハウス内仮伏せの様子

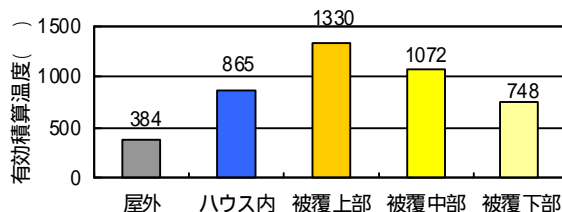
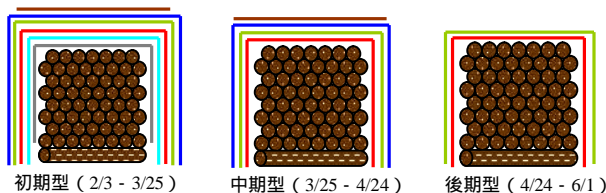


図-3 仮伏せ期間中の各測点の有効積算温度



- 凡例
- 新聞紙
 - ビニール
 - ホダ木コート
 - ポリシャイン
 - ブルーシート
 - ダンボール

図-1 被覆の構造

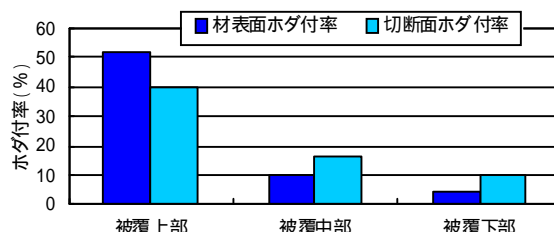


図-4 仮伏せ終了時のホダ付率

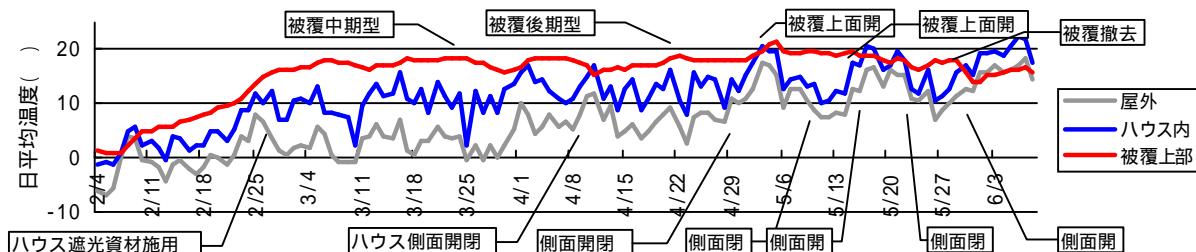


図-2 仮伏せ期間中の管理と各測点の日平均温度

(担当 研究部 主任専門研究員 高橋健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536
FAX 019-697-1410